

第VI部 安全衛生関係団体の組織及び活動

- 1 国立労働安全衛生研究所 (National Institute for Occupational Safety and Health ; 略称 NIOSH : <https://www.cdc.gov/niosh/index.html> (2024年10月31日に再確認しました。)

最終閲覧日 : 2023年4月24日及び2024年10月31日。本節では2024年10月31日の時点において、原典の記述に基づき変更した部分を「青色字」で表示してあります。)

(1) NIOSH の創設の経緯と使命

1970年の労働安全衛生法 (Occupational Safety and Health Act of 1970) により、NIOSH 及び職業安全衛生局 (Occupational Safety and Health Administration: OSHA) が創設されました。OSHA は米国労働省 (U.S. Department of Labor) が管轄する組織で、職場の安全衛生に関する規制を策定、執行する役割を担っています。NIOSH は保健社会福祉省の管轄下の疾病対策予防センター (Centers for Disease Control and Prevention: CDC) の1組織であり、労働安全衛生分野における研究、情報、教育及び訓練の提供を通じて、国 (合衆国) の全ての男女に安全で健康的な労働条件を保障し、及び合衆国の人的資源を保護することを支援する使命を有しており、NIOSH は、合衆国労働省の OSHA 及び鉱業安全衛生局 (MSHA) と密接に連携して仕事をしています。疫学、医学、看護学、産業衛生学、安全学等多様な分野から集まった1,300人以上の職員が全米に散らばっています。

(2) 組織及び所在地

NIOSH の本部はワシントン DC にあり、アトランタとジョージアに事務所があり、さらに、アラスカ州アンカレッジ、オハイオ州シンシナティ、コロラド州デンバー、ウエストバージニア州モーガンタウン、ペンシルバニア州ピッツバーグ、ワシントン州スポーケン及びジョージア州アトランタに研究所と事務所があります。

(3) NIOSH Strategic Plan: FYs 2019–2026 (NIOSH の戦略的計画 (2019年度から2026年度まで))

以下に NIOSH のウェブサイト (https://www.cdc.gov/niosh/media/pdfs/2024/05/V8-NIOSH-Strategic-Plan_V8_August-2023_FINAL.pdf (Version 8: August 2023 : 2023年8月版)) で公表されているこの計画の抜粋として、“Changes for Version 8: August 2023 (2023年8月第8版による変更)” の冒頭部分及び “Introduction” (初めに) 中から抜粋した7~8ページ部分を「英語原文—日本語仮訳」の形式で紹介します。

Changes for Version 8: August 2023

Translation Research Changes to Implementation Science

第8版の変更点 : 2023年8月

翻訳研究 から実施科学への変更

<p>NIOSH has historically used the term translation research to investigate factors that enhance and limit the development, transfer, and use of OSH information and technology. This term and pursuant activities were based on the widely cited National Institutes of Health (NIH) 4-phase bench-to-bedside model. More recently, NIOSH has conducted a literature review and an environmental scan to gather more background information from the field of implementation science . As a result, NIOSH has replaced the term “translation research” with “implementation science” to better integrate with the terminology, definitions and concepts used in the broader implementation science field. Implementation science investigates the processes by which scientific evidence is adopted, implemented, and sustained in various community settings. Adoption of the term implementation science also advances NIOSH’s Evaluation Capacity-Building Plan.</p>	<p>NIOSH はこれまで、OSH 情報や技術の開発、移転及び利用を促進したり制限したりする要因を調査するために、トランスレーション・リサーチ（翻訳研究）という用語を使ってきた。この用語及びそれに準じた活動は、広く引用されている米国国立衛生研究所（NIH）のベンチからベッドサイドまでの4段階モデルに基づいていた。さらに最近、NIOSH は実施科学の分野からより多くの背景情報を収集するため、文献調査及び環境スキャンを実施した。</p> <p>その結果、NIOSH は、より広範な実施科学の分野で使用されている用語、定義及び概念との統合を図るため、「トランスレーションリサーチ（翻訳研究）」という用語を「実施科学」に置き換えた。</p> <p>実施科学は、科学的根拠が様々な地域社会で採用され、実施され、及び維持される過程を研究するものである。</p> <p>実施科学という用語の採用は、NIOSH の評価能力構築計画を推進するものでもある。</p>
--	--

<p>Introduction</p> <p>The National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH) studies occupational safety and health through scientific research. The Institute then transforms its research into cost-effective, global work practices. The Occupational Safety and Health Act of 1970 established NIOSH and it is now part of the Centers for Disease Control and Prevention in the U.S. Department of Health and Human Services. NIOSH works with public and private sectors to make work safer, healthier, and more productive for workers, employers, and the nation.</p> <p>The NIOSH Strategic Plan reports research and service goals for fiscal years</p>	<p>はじめに</p> <p>米国労働安全衛生研究所（NIOSH）は、科学的研究を通じて労働安全衛生を研究している。そして、その研究を費用対効果の高い世界的な労働慣行に転換している。1970年の労働安全衛生法により NIOSH は設立され、現在は米国保健社会福祉省の疾病管理予防センターの一部となっている。</p> <p>NIOSH は、労働者、使用者そして国家にとって、より安全で健康的で生産性の高い労働を実現するために、官民セクターと協力している。</p> <p>NIOSH 戦略計画は、2019-2026 会計年度の研究及びサービス目標を報告している。</p>
--	--

2019-2026. These goals address a broad range of occupational health and safety hazards, affecting an ever-changing workforce. Jobs in the U.S. economy continue to shift from manufacturing to services. Longer hours, compressed workweeks, an aging workforce, reduced job security, and part-time and temporary work have also changed the workforce. These changes represent a major challenge for NIOSH as it manages limited resources to address its research portfolio priorities.

The NIOSH Strategic Plan introduces strategic, intermediate, and activity goals that guide occupational health and safety research priorities and service work. NIOSH's unique portfolio of research programs includes sector, cross-sector, and core and specialty research programs. These programs perform research that covers a wide range of activities, from basic to applied research. Service work covers non-research work that supports NIOSH's mission or fulfills a legislative mandate. Service work can also support research work within NIOSH and outside with external partners. For example, the Surveillance Program provides data and analysis as a service to both NIOSH's programs and to external partners, while the Health Hazard Evaluation Program provides an external service. NIOSH awards funding priority to outside researchers conducting extramural projects that address the research goals identified in the NIOSH Strategic Plan. NIOSH also leads new intramural projects to address the goals stated within this plan.

NIOSH recognizes that new issues may emerge or become more important during the current plan. Goals may be retired because they have been achieved. Priorities may shift in response to changing conditions. NIOSH will

これらの目標は、刻々と変化する労働力に影響を及ぼす、広範な労働安全衛生の危険に対処するものである。米国経済の雇用は、製造業からサービス業へとシフトし続けている。長時間労働、週の所定労働時間の短縮、労働力の高齢化、雇用保障の低下さらにはパートタイムや臨時の仕事も労働力を変化させている。このような変化は、NIOSHにとって、研究ポートフォリオの優先課題に取り組むために限られた資源を管理する上での大きな課題となっている。

NIOSH 戦略計画は、労働安全衛生研究の優先順位及びサービス業務の指針となる戦略的、中間的、及び活動的目標を紹介している。

NIOSH のユニークな研究プログラムのポートフォリオ（文書）には、セクター、クロスセクター、コア及び専門研究プログラムが含まれる。これらのプログラムは、基礎研究から応用研究まで、幅広い活動をカバーする研究を実施している。サービス業務には、NIOSH の使命を支援する、又は法律で定められた任務を遂行する研究以外の業務が含まれる。サービス業務では、NIOSH 内部及び外部のパートナーとの研究業務をサポートすることもある。例えば、サーベイランス・プログラムは、NIOSH のプログラム及び外部パートナーへのサービスとしてデータと分析を提供し、健康被害評価プログラムは外部サービスを提供している。

NIOSH は、NIOSH 戦略計画で特定された研究目標に取り組む学外プロジェクトを実施する外部研究者に優先的に資金を提供している。

NIOSH はまた、この計画に記載された目標に取り組む新しい学内プロジェクトを主導している。

NIOSH は、現在の計画の中に新たな問題が浮上したり、より重要になったりする可能性があることを認識している。目標は達成されたため、廃止されることもある。状況の変化に応じて優先順位が変わることもある。NIOSH は、現在又は予測され

<p>add or remove issues based on current or anticipated burden, need, and impact and allocate resources to address these changes.</p> <p>In the next couple of sections, Part I explains how NIOSH develops and organizes its research goals, and Part II explains the NIOSH service goals.</p>	<p>る負担、必要性及び影響に基づいて課題を追加又は削除し、これらの変更に対応するために資源（リソース）を配分する。</p> <p>次の2つのセクションでは、第1部でNIOSHがどのように研究目標を策定し、組織化しているかを説明し、第2部でNIOSHのサービス目標を説明する。 (資料作成者：これらの第1部及び第2部については、「英語原文—日本語仮訳」としての紹介は、行いませんでした。)</p>
---	--

<p>Strategic Goals</p> <p>Representing the health and safety issues facing the U.S. workforce, NIOSH established seven strategic goals:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Reduce occupational cancer, cardiovascular disease,(CVD) diverse reproductive outcomes, and other chronic diseases. 2. Reduce occupational hearing loss. 3. Reduce occupational immune, infectious, and dermal disease. 4. Reduce occupational musculoskeletal disorders. 5. Reduce occupational respiratory disease. 6. Improve workplace safety to reduce traumatic injuries. 7. Promote safe and healthy work design and well-being. 	<p>戦略目標</p> <p>NIOSHは、米国の労働者が直面する安全衛生問題を代表し、7つの戦略目標を設定した：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業性がん、心血管疾患（CVD）、多様な生殖予後及びその他の慢性疾患を減らす。 2. 職業性難聴の減少 3. 職業性免疫疾患、感染症及び皮膚疾患の減少。 4. 職業性筋骨格系障害の減少 5. 職業性呼吸器疾患の減少 6. 職場の安全性を向上させ、外傷を減らす。 7. 安全で健康的な作業設計及び福利厚生を促進する。
---	---

(4) 国家労働関係研究項目（The National Occupational Research Agenda (NORA)による重点的な研究活動等の推進 *(資料作成者注：以下の記述については、概ね変更がないことを2024年10月31日に確認しました。)*

NORAは、NIOSHが1996年以来開発した、革新的な研究及び作業場での改善された実践活動を促進するための共同（研究）プログラムであり、NIOSHが重点的に推進している研究計画です。その内容としては、業種別（例えば製造業）に重点として推進すべき研究項目が掲げられています。この国家労働関係研究項目では、次のような情報が、（研究項目の）優先順位を設けるために求められています。

- 特定の傷害又は（業務上の）疾病についてリスクのある労働者の数
- 危険有害な要因又は問題の重大性
- 新しい情報や取組が研究成果の差を作る確率

2 全米安全評議会(National Safety Council : 略称 NSC : <https://www.nsc.org/company> : 最終閲覧日及び改訂日 : 2024年10月31日)

アメリカの安全衛生関係団体で、最も活発に活動しているものの一つは、全米安全評議会(National Safety Council : NSC)です。NSCは、すべての人々の安全と健康や快適な環境の保持を目的とする非政府非営利団体で、1913年に職場の安全衛生の向上を目指す団体としてスタートし、その後、職場に限らず災害一般を対象に災害防止のための様々な活動を展開しています。NSCは、1953年に連邦法上認められた組織となり、今日に至っていますが、現在では、労働安全の指導者養成、労働者の安全衛生確保、自動車運転、救急措置等の分野に関する教育訓練講習会を幅広く実施しています。また、毎年、アメリカ合衆国内での職場、自動車事故、家庭内、社会等における傷害事故に関する年報（例えば、Injury Facts）を頒布しています。また、毎年開催される大会及び展示会には15000～18000人の安全と健康に関する専門家が参加しています。

2 アメリカ産業衛生協会（American Industrial Hygiene Association : 略称 AIHA : <https://www.aiha.org/> 。最終閲覧日 : 2024年10月31日

アメリカ産業衛生協会（以下単に「AIHA」という。）は、1939年に設立され、その会員のために、最も高い専門的能力を達成し、及び維持することに捧げることを目的としている非営利組織であり、その使命は、労働者の健康を保護するための知識を創造し、職場における（業務関連の）疾病を除去することであるとされています。

約8500人以上に達する会員の半ば以上が、認定インダストリアル・ハイジニスト（(Certified Industrial Hygienist ; 略称 : CIH)）として認証されている者であって、さらに彼等の多くは他の専門的な資格をも保持しています。また、AIHAは、労働衛生、環境衛生及び労働安全の分野の専門家としての能力を維持するための包括的な教育訓練プログラムを管理運営しています。

このほか、AIHAは、アメリカ合衆国内で、毎年、ACGIHと協力して、労働者の健康を守るための新しい手段と戦略、経験及び情報交換等を目的として、世界中から数千人の産業衛生に関する専門家が参集する大会（AIHceと呼ばれている。）を主催しています。

4 アメリカ労働衛生専門家会議（American Conference of Governmental Industrial Hygienist;略称 ACGIH : <https://www.acgih.org/> ） （最終閲覧日 : 2024年10月31日）

アメリカ労働衛生専門家会議（American Conference of Governmental Industrial Hygienists;略称 ACGIH）は、1938年にその先駆的な団体（The independent

National Conference of Governmental Industrial Hygienists (NCGIH)) として発足し、1946年に現在の ACGIH として再編成され、当初の連邦又は州政府に関連するインダストリアス・ハイジニストに限定されていた会員資格を、外国の政府関係機関に勤務するインダストリアス・ハイジニストにも広げました。その後2013年に、産業衛生、労働衛生、労働安全の分野に従事するすべての専門家が会員の資格を得ることができるようになりました。

ACGIH の活動として最もよく知られているのは、Threshold Limit Values for Chemical Substances (TLV®-CS) Committee (化学物質についての抑制濃度委員会) が、1956年以來公表している“Threshold Limit Values (TLVs®)” 及びその科学的根拠をまとめて1962年以來公表している Documentation of the Threshold Limit Values であり、さらには物理的因子の許容限界、一定の化学物質についての Biological Exposure Indices (BEIs®) (生物学的ばく露指標) です。

5 アメリカ規格協会 (American National Standardization Institute; 略称 ANSI : <https://www.ansi.org/> : 最終閲覧日 : 2024年10月31日)

アメリカ規格協会(ANSI)は、1918年に創立された、民間の非営利団体です。ANSI は、ほとんどすべての産業分野—音響装置から建設設備、日用品から畜産まで、さらにはエネルギー供給まで、そしてさらに多くの産業分野で—直接にビジネスに影響を与える数千にのぼる規格及びガイドラインの策定、普及及び使用についてカバーしています。

その使命は、任意的なコンセンサス基準及び確認システムを機能させ、さらにはこれらの活動を統合させてセーフガード機能を発揮させることによって、アメリカ合衆国のビジネス上の世界的規模での競争力及び生活の質 (quality of life) を高めることです。

ANSI は、延べ 10,000 件以上のアメリカ合衆国国内規格を開発してきた実績を有していますが、比較的最近における労働安全衛生に関連した規格としては2005年の OHSS(Occupational Health and Safety Systems についてのアメリカ合衆国国内規格)を2012年に改訂した“ANSI/AIHA Z10-2012、Occupational Health and Safety Management Systems” (その後改訂されて現在のものは、ANSI/ASSP Z10.0-2019・Occupational Health and Safety Management Systems) の策定が挙げられます (最終閲覧日 : 2024年10月31日)。